

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和6年 1月26日

事業所名:小野ゆらんこ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	確保できている。	はい91% どちら6% わからない3% ・室内も外も思いっきり活動できるのでいいと思います。	
	2 職員の適切な配置	指定基準は満たしている。	はい91% わからない9% ・一人に一人付いてもらっている時があるが、毎回は見ていないので分かりません。	配置基準について再度説明する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	バリアフリー化は整っている。 個々に応じた視覚支援を行っている。	はい100%	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	施設内は広く、保育室、多目的室を有効利用している。	はい100%	現状の取り組みを継続する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	日々のPDCAサイクルを行っている。立案に関しては常勤職員が担っているが、保育後の振り返りで非常勤の職員も積極的に参画している。		現状の取り組みを継続する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者による外部評価は受けていない。		事業所の自己評価結果をホームページ載せている。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	法人内研修全職員対象、新人研修、職種ごとの研修、施設内研修を実施している。		職員の質の向上の為に外部研修への参加の機会を増やせるような体制を整えている。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	モニタリング、個別支援会議、計画案、アセスメントの実施を行っている。	はい96% わからない4% ・よく子どもを見てくださり園での対応や家での対応など、細かくして下さるのでわかりやすく安心していきます。	現状の取り組みを継続する。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの状況に応じ、個別支援と集団支援を組み合わせた支援計画を作成している。		現状の取り組みを継続する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	子どもの支援に必要な項目及び具体的な支援内容を記載している。	はい100%	現状の取り組みを継続する。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	職員打ち合わせ時に確認すると共に子どもの日誌にも添付し常に確認できるようにしている。個別支援会議を通して共通理解を図っている。	はい97% わからない3%	現状の取り組みを継続する。適切な支援の実施を心がけているが、子どもの思いを読み解く力等の資質向上に努める。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	常勤保育士2名が検討し立案している。保育後のミーティングでの意見も参考にしできるだけ多くの意見を聞きながら補足する。		子どもの現状を把握し、できるだけ多くの意見を参考にし立案する
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日、長期休暇明けには、ゆったりとかかわる等内容を工夫している。		現状の取り組みを継続する。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	子どもの状態や季節、行事等を考慮し活動テーマを決めて取り組んでいる。戸外での活動も工夫し実施している。写真などで保育の見える化を工夫している。	はい93% わからない7% ・子どもがいろんなこと(その日にしたことなど)を伝えてくれるので工夫してくださっていると思う。・季節に合わせた遊びがあるのが良い。	現状の取り組みを継続する。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	保育前に必ず打ち合わせを実施。内容、役割分担確認し日々の保育に取り組んでいる。		現状の取り組みを継続する。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	保育終了後の振り返りを行い情報を共有している。		現状の取り組みを継続する。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記録が、明日に続く内容であったり、気付きに対して記載するよう心がけている。支援の課題を検証・改善している。		現状の取り組みを継続する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的なモニタリングを実施し支援計画の見直しをしている。		現状の取り組みを継続する。
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	基本的には、施設管理者と児童発達支援管理責任者が出席している。必要に応じて、担当職員も同席している。		現状の取り組みを継続する。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	必要に応じて園訪問等で連携を取っている。		現状の取り組みを継続する。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、			
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修の情報がある際は、参加を検討している。		専門機関での研修受講の機会を増やしている。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	保育所、こども園、幼稚園との併行利用をしている子供が、90%であるので、今のところ必要性を感じていない。	はい51% どちら9% いいえ3% わからない 37% ・幼稚園で障害のない子たちと活動しているので、ここで交流しなくてもいいと思います。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	施設訪問・見学は受け入れている。地域の行事に参加させてもらっている。		地域住民を招待できる行事がどのようなものがあるのか検討したい。
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時、支援計画説明時に行っている。	はい100%	現状の取り組みを継続する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談で支援計画を示しながら、丁寧な説明を行っている。	はい100% ・計画が新しくなる度に丁寧に説明してもらっている。	現状の取り組みを継続する。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ママカフェを年2回・ペアレントトレーニングを全6回開催した	はい80% どちら11% いいえ4% わからない9% ・休みが合えばまた、参加したい。	現状の取り組みを継続する。 開催曜日については検討する。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	迎える時や、マジックミラーで保育の様子を見てもらいながら、情報交換を行っている。会えない場合には連絡帳で情報交換を行い共通理解を図っている。プチ参観を実施した。	はい100% ・気になることやできたことがある時など報告してもらえる。	日々の送迎時に保護者に子どもについて情報交換を十分にする。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談の時に十分な時間が取れるので、相談にのったり、助言を行っている。個々の相談にも応じている。	はい97% わからない3% ・相談したとき親身になって聞いてもらえる。	現状の取り組みを継続する。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者主体で父母の会が開催されている。父母の会より依頼があれば職員も出席している。	はい91% わからない 9% ・交流の場として提供して頂けたりしている。	現状の取り組みを継続する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	契約時苦情に対する対応体制整備について説明をする。苦情があったときはゆらんこ便り・玄関に掲示し周知している。	はい71% どちら3% わからない26% ・苦情を言ったことがないのでわからない。	苦情があった時はもちろんのこと、無いことも保護者に周知する。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	ゆっくりと話をしたり、ジェスチャー等もまじえて伝えたり、図で示したり絵カードを利用している。	はい100%	現状の取り組みを継続する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	小野ゆらんこ便りを月1回発行。 ホームページ・Instagramを更新している。	はい91% どちら3% わからない6% ・月一度会報をもらいいろいろな情報などが書いてある。	現状の取り組みを継続する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	連絡はメールを利用。個人情報使用同意者及び写真掲載の同意書を取り、取扱いに注意している。	はい94% どちら3% わからない3% ・他の保護者の方がおられるときに子どもの様子を話されるので個別に話して欲しい。	個別療育の様子を保護者に伝える時は、個室で伝える。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを作成し緊急時の対策に取り組んでいるが、周知についてはできつつある。	はい97% わからない3%	お便りで玄関に閲覧用のマニュアルを設置していることをお便りで年1回は必ず知らせ、途中入所の保護者にも周知できるようにする。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年間計画を立て、月々実施している。 コミセン大部の協力で避難場所として利用させてもらっている。	はい100%	現状の取り組みを継続する。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	法人全体の研修に参加した。		全員が受講できる法人研修を継続している。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	法人で身体拘束禁止に関する施設内取り決め事項を決定。また、やむを得ない場合があるときは、保護者と懇談での了解を取り、支援計画に記載。		必要があれば、今後支援計画書に記載する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	医師の指示書が必要なケースはないが、保護者からの情報を得て、食物アレルギーへの対応をしている。		現状の取り組みを継続する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	毎回の職員会議で、議題に必ず取り上げ全職員で検討し改善を図るようにしている。会議に出席をしていない職員には回覧し周知している。		現状の取り組みを継続する。
その他		満足度としては、子どもは通所を楽しみにしているか はい 97% どちらともいえない3% 事業所の支援に満足しているか 97% どちらともいえない3%の回答を頂く。“毎週前日になると楽しみにしています”“居心地が良いみたいで楽しそうです”“とても楽しみにしている。子どもの笑顔が見られる場所で嬉しく思っている”“通うようになってからすごく成長したので、とても良かったと思っています”“満足している”という回答があり、子ども達にとって「できた」「たのしかった」と思える経験を重ね、自己肯定感が育ってきているのが大きな要因のように思う。開設してから2年5か月、昨年自己評価を実施し、当施設の改善点や保護者にどのように伝えるか等職員で検討し、できることは前向きに実践してきた。今年度は、保護者向けの研修、ペアレントトレーニングや保護者主体の父母の開設・開催されるなど、子どもたちだけでなく、保護者支援の充実も図れてきた。		